

2018年

ホームページへGo!→
スマホで教室だよりが見られます

教室だより4月号



公文式本市場教室 火・木 3～7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3～7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

お花見

日本人が「日本に生まれて幸せだなあ～」と思うことに関するアンケートによると、「四季の美しさ」と答えた人が2番目に多かったようです。ちなみに1位は「食べ物がおいしい」。

春といえば「お花見」。日本で「お花見」が職場でも家族間でも、友人同士の集まりでもされるようになったのは、屋外で、大勢でおいしいお弁当を食べたり、お酒を飲んだりできるという日本ならではの土壌があったからではないでしょうか。それがなければ、今ほどお花見がはやってはいなかったかもしれません。

ちなみに、海外でもアメリカ・ワシントンD.C.のポトマック河畔の桜などは有名ですが、ワシントンD.C.では屋外での飲酒が禁じられているため、桜の木の下にレジャーシートを敷くピクニックスタイルではなく、桜並木の下をお散歩するのが主流で、せいぜい記念の写真を撮るくらいようです。

「お弁当」という日本独特のすばらしい脇役が、その存在感を発揮しているのかもしれません。

そう考えると、2位の「四季の美しさ」と1位の「食べ物がおいしい」という2つの要素を楽しめる「お花見」が日本に定着しているのは当然といえば当然なのかもしれませんね

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“いつも100点！「ちょうどの学習」が子どもに自信をつける”

生まれつき勉強嫌いな子どもはいません。

それなのに、成長していくにしたがって、勉強嫌いになったり、落ちこぼれになっていくのは、本人にとってつまらないことや難しすぎることをやらされるからです。

ついこの前まではできていた子どもが少しずつできなくなっていくのは、「できる！」という感覚を味わえなくなるからです。そうすると「わかる」「わからない」の区別さえつけられなくなります。逆に「できる！」という喜びを味わえる子どもは、勉強がおもしろくなり、どんどん先へ進めます。まさに、好きこそものの上手なれです。

子どもにはつねに「自信」をもたせたいものです。そのためには自分でできる問題を適切に与えることが必要です。

「ちょうどのところを学習させる」と公文式でいうのは、こういう意味なのです。

「ちょうどのところ」から始めるから、無理がありません。

無理がなければ、自分の力で進んでいけます。そうすると、勉強が楽しく、さらにどんどん先へ進んでいける、それが公文式なのです。

2018年4月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

4月分の会費引き落としは3月28日（水）です。よろしくお願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は

固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

様

*ゆき子の一言コラム

新聞は語彙を増やす最適ツール

「文章読解は単語の理解から」

当公文塾には、様々な学力の子どもが学びにきていますが、問題の漢字が読めず、書かれている意味を理解していない生徒が多いことに驚いています。また、英語の和訳はできるのに、その意味がわからないという生徒も多く見受けられます。これは社会全体の問題かもしれません。

「その単語の意味正しく理解してる?」

一見、その原因は読解力の低下だと思われがちですが、その前に語彙を理解していないということが問題だと思っています。語彙を理解するとは、定義を正確に説明できるということです。例えば、「皮肉」の意味は、辞書などで調べてみると、うわべだけなこと、またそのさま、遠まわしに意地悪く相手を非難することだとわかります。しかし、質問をしてみると正確に答えることができず、案外答えに詰まる人が多くいるのではないのでしょうか。意味をきちんと理解せずに何となく話している人が多いのを実感しています。文章を見て、文字を読めていることと、意味を理解できていることは全然違います。「困難は分割せよ」。これはフランスの哲学者・デカルトの言葉。難しい、大変なことは分割しなさいという意味です。文章を理解する上で、最も分割したものは単語です。単語の意味を理解していないと文節、段落、そして文章全体があいまいになるんです。単語の意味がわかっていないのに、正確に読み取るということはありえません。単語の意味を定義できなければ国語辞書で調べてみましょう。意識して新聞を1年間読むようにすると、必ず学力アップにつながります。5教科の教科書や参考書などを読解する上で語彙が絶対に必要なんです。結局、試験問題が解けるかというのは、語彙が多いか少ないか、シンプルにそれだけです。

「気になる記事から単語で例文作り」

実際に新聞で語彙を増やす方法がありますのでご紹介します。

縦書きが適しているので、横書きのノートを縦に使うのがおすすめです。新聞を読んで気になる記事から、わからない(定義が正確でない)単語を選んで蛍光ペンで線を引いて、辞書で調べる。ここまで実践している人は多くいると思いますが、ここからが語彙を自分の糧にするコツ。その単語を使って、例文を作成してみましょう。例文を作ることで、語彙の使い方がわかります。また、ノートを作った後には、実際にその例文で会話すると、より理解を深めることができます。ぜひ1年間だけでもやってみてください。

「1日1単語、コツコツと新聞は社会の窓口」

新聞には、社会を知ることができる情報がまんべんなく詰まっています。内容が難しすぎないのもポイント。時事問題になじむきっかけにもなるので、受験生だけでなく、新社会人の方にもおすすめです。いきなりわからない単語全てに、挑戦しようとするとうまくいかなくなってしまうこともあるので、まずは1日1単語からスタートしてみてください。

「切る」「貼る」が記憶力の助けに

新聞を読んでない受験生には、せめて受験の期間だけでも新聞を読んでみてとすすめています。親御さんからは、新聞を読んだあと、新聞がたまってしまうのでデジタルではダメなんじゃないか?という質問をいただきます。デジタルはもちろん便利ですが、紙には紙ならではの良さがあります。その魅力は、「触る」「切る」「貼る」ができること。子どもたちにとって大事なものは、記憶に残ることです。新聞を切ったり、貼ったり、線を引いたりするのは体験になるのです。例えば、離れた位置に掲載してあった記事を切り抜くのが難しかったことや、ノートの何ページ目に上手に貼れたあの記事とか、それがエピソードとして記憶に残り、記憶されます。

*教室での決まりごと。

- ・はきものはきちんとそろえよう!
- ・あいさつは おおきなこえで はっきりしよう!
- ・もちものには なまえ をかきましょう!
- ・でんわをかりたら かならず でんわ代10えん いれてください!

教室は午後7時に終了します。学習に要する時間を逆算して来てください。また、できる限り学習日には、学校が終わっ

たらすぐ来るようにしてください。たっぷり遊んでからでは、勉強に集中できません。